

# 環境マネジメント

私たちの製品・サービスを通じて、社会の環境課題を解決できるように、環境配慮型製品の開発に努めること、また私たちの事業活動に伴い発生する環境負荷を低減するため、エネルギーの有効利用、廃棄物排出量の削減などを重点目標に掲げ、環境管理活動に取り組んでいます。

## 推進体制

本社・支社及び製造事業所の委員で構成される環境委員会を中心に環境管理活動に取り組んでいます。

「大日精化の環境方針」に基づき、環境法令の順守を徹底するとともに、「地球温暖化対策としてエネルギーの有効利用の推進」「PRTR\*対象物質の排出量削減」「廃棄物排出量の削減とリサイクルの推進」「地域社会の環境保全活動」などの実績や改善情報を水平展開することで、企業の社会的責任をより一層果たしていきます。

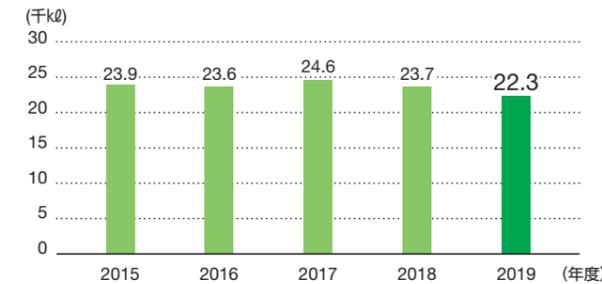
環境管理活動の運営組織である環境委員会は各製造事業所及び支社・支店の委員で構成され、そのサポート組織である環境安全統括部をはじめ、全社安全衛生委員会や化学物質管理委員会などの社内組織と連携して、グループ全体で環境管理活動に取り組んでいます。

### 大日精化の環境方針

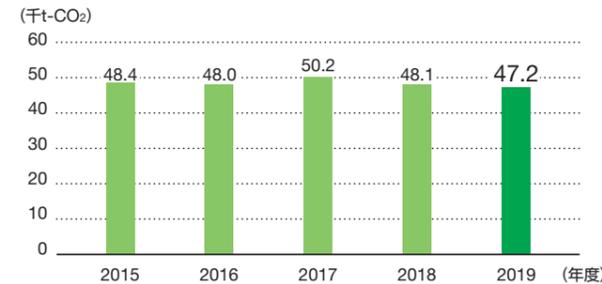
- 1 経営者、全社員が環境管理活動に参画します。
- 2 環境に配慮した製品の開発に努めます。
- 3 環境負荷の減少に努力します。
- 4 法規、条例、協定などを守ります。
- 5 社会との調和を図るよう対話を深めます。

\*PRTR(Pollutant Release and Transfer Register):有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源からどの程度環境中に排出されたか、あるいは廃棄物などに含まれて事業所の外に移動したかというデータを集計・報告し公表する制度

エネルギー使用量の推移(原油換算)



CO<sub>2</sub>排出数量



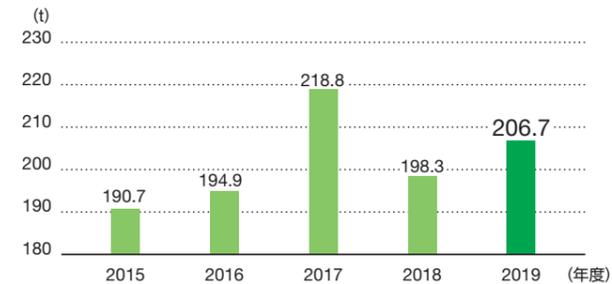
エネルギー原単位と生産数量の推移



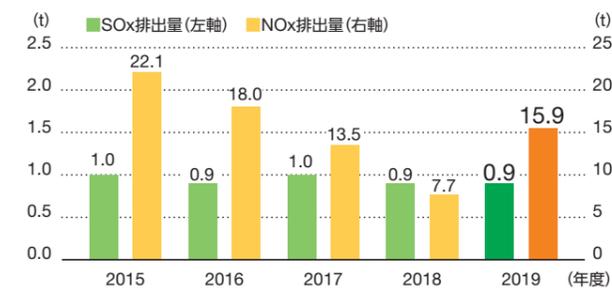
廃棄物 リサイクル量・最終処分量



PRTR対象物質排出量

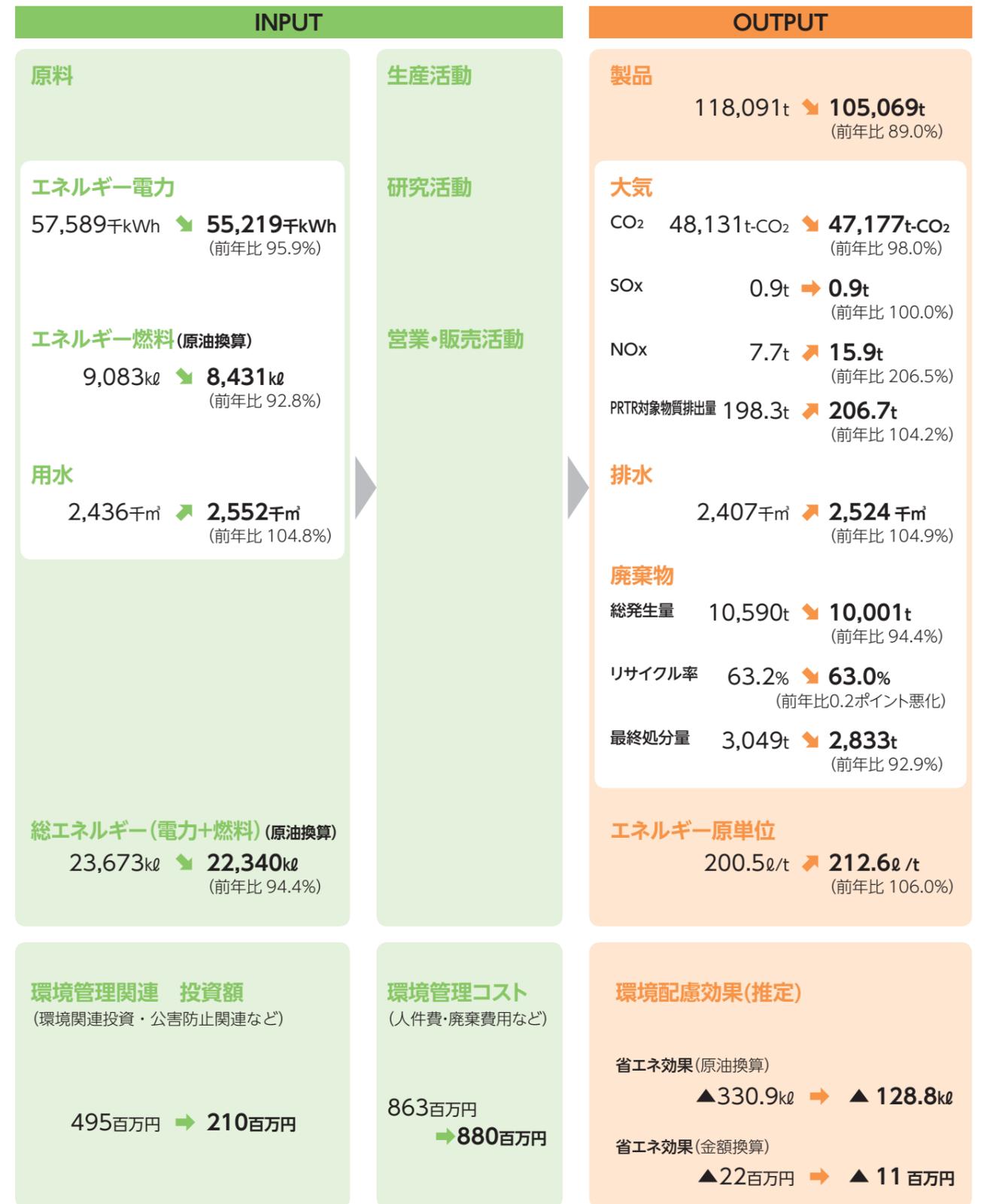


SO<sub>x</sub>・NO<sub>x</sub>排出量



## 事業活動のマテリアルフロー

事業活動のため投入した資源・エネルギー量、発生した環境負荷に関する数値を把握・分析し、エネルギーの効率的な利用に向けた取り組みに反映させています。



# 環境管理活動評価と次年度目標

昨年度、各事業所ではそれぞれのEMS\*活動を通じ、  
本社・支社においても目標を設定し、環境管理活動を全社的に展開しました。

\*EMS：Environmental Management System の略で、環境方針を作成し、実施し、達成し、見直しかつ維持するための計画・体制・プロセスのこと。

## 事業所

☆☆目標達成 ☆★ほぼ達成 ★★★要努力

項目	取り組み内容	目標	活動概要	結果・実績	評価	2020 年度目標	
1	地球温暖化対策 (エネルギーの有効利用)	エネルギーの有効利用に 取り組む	エネルギー原単位を前年 度比 1% 減を目指す	計画的な省エネ機器の導入、運用方法の改善に 加え、再生可能エネルギーの導入に向けた検討 に取り組みました。	空調設備の運転制御装置やモーターのインバーター化など省エ ネ機器の導入、排水処理施設の運転方法改善や反応工程の見直 しなど運用方法の改善を行いました。エネルギー原単位は生 産量の減少の影響を受け、生産量ベースで前年度比 6.0% 増、 売上金額ベースでは同 1.1% 増となりました。	☆☆	<b>[目標]</b> エネルギー原単位を前年度比1%減を目指す。 今後も計画的な省エネ機器の導入と再生可能エネルギーの導入に 向けた検討を進めていきます。特に生産工程におけるさまざまな 省エネ対策を強化していきます。
2	環境配慮型製品の開発・ 売上高向上	環境配慮型製品の開発を 推進し、販売を促進する	環境配慮型製品の売上高 向上	CO <sub>2</sub> 削減に寄与するウレタン樹脂「HPU」な どの環境配慮型製品の開発・販売促進、省エネ・ 蓄エネに寄与する材料の開発を行うとともに、 販売促進を行いました。	省エネ・蓄エネに寄与する材料の開発は製品化に至りません でしたが、環境配慮型製品の新規登録が 8 製品ありました。グラ ビアインキを中心にバイオマス関連製品の販売を促進した結果、 環境配慮型製品の売上高は前年度比 2% 増となりました。	☆☆	<b>[目標]</b> 環境配慮型製品の売上高を向上させる。 ①環境配慮型製品の開発・登録の促進 CO <sub>2</sub> 削減に寄与するウレタン樹脂「HPU」の販売促進 バイオマス系製品の開発・販売促進 ②省エネ・蓄エネに寄与する材料の開発促進
3	廃棄物削減 リサイクル推進	廃棄物発生量の抑制に取り 組み、リサイクル化を推 進し、最終処分量の削減 に努める	リサイクル率を前年度比 1 ポイント増を目指す 最終処分量を前年度比 1% 減を目指す	廃棄物の発生段階からの削減に取り組みました。	最終処分量は前年度比 7.1% 減となったものの、廃プラスチックの リサイクルが進まず、リサイクル率は同 0.2 ポイント悪化しました。	☆☆	<b>[目標]</b> ◎リサイクル率を前年度比1ポイント増を目指す。 ◎最終処分量を前年度比1%減を目指す。 昨今社会的な課題となっていますプラスチック廃棄物については、プ ラスチックを扱う当社グループでも重要な検討テーマと捉えており、 排出量削減とリサイクル方法の見直しの検討を進めていきます。
4	化学物質の排出量削減	PRTR 対象物質の排出量 削減に向けた取り組みを継 続する	PRTR 対象物質排出量を前 年度比 1% 減を目指す	溶剤回収設備などの除害設備の導入や機掃時に 使用する溶剤の代替品の採用、取り扱い方法の 見直しなどから、PRTR 対象物質の排出量の削減 を進めました。	機掃時に使用する溶剤を代替品に変更するなど、排出量削減を推 進しましたが、PRTR 対象物質を使用する製品の増産の影響などに より、排出量は前年度比 4.2% 増となりました。	☆☆	<b>[目標]</b> PRTR対象物質排出量を前年度比1%減を目指す。 今後も溶剤回収設備をはじめとする除害設備の効率的な運転、PRTR 対象物質の代替品の採用を推進するとともに、環境配慮型製品の開 発・販売促進により有害化学物質の排出量削減に努めます。
5	法的要求事項の順守 (大気・水質・振動・騒音)	環境関連法令・基準を順 守し、各種届け出を漏れ なく実施する	違反件数ゼロ件	汚染物質の大気や水域、土壌への排出による環 境汚染を防止するために、汚染物質の排出管理 を行いました。	適切に管理・運営しました。 NOx の排出量は前年度比 206% となりましたが、濃度は法で 定められた基準値内に収まっています。排出量のモニタリング と管理を継続していきます。	☆☆	<b>[目標]</b> 違反件数ゼロ件 今後も排水処理設備、溶剤回収設備など除害設備の適切な維持管 理に努めます。
6	社会との調和	近隣住民の方からの苦情 に対して、その原因を調 査し、再発防止策を徹底 する	近隣への社会貢献活動に 参加する 近隣の方からの新規苦情 発生ゼロ件を目指す	近隣での清掃活動、防災活動、緑化事業などの 社会貢献活動に参加しました。 ご指摘いただいた事案につき、原因究明と再発 防止策を立案・実施し、関係者への注意喚起を 行いました。 また、自主的な土壌調査の結果、敷地内の土壌 から環境基準を超えるダイオキシン類が検出さ れた東京製造事業所では、自主的な環境対策と して土壌入れ替えなどにより汚染源除去を進め ました。	前年度から4件増加し、6件のご指摘をいただきました。 ◎東海製造事業所、川口製造事業所、成田製造所での騒音ご指摘 ◎東海製造事業所での臭気ご指摘 ◎東海製造事業所での落葉処理ご指摘 全ての苦情について解決するとともに、事案と再発防止策立案 を全社で情報共有しています。	☆☆	<b>[目標]</b> 今後も新規苦情件数ゼロ件を目指すとともに、ご指摘い ただいた事案に対して、内容を真摯に受け止め、対応します。 東京製造事業所では土壌入れ替えなどの汚染源除去工事を継続し ます。

## 本社・支社

項目	取り組み内容	目標	活動概要	結果・実績	評価	2020 年度目標	
1	地球温暖化対策 (エネルギーの有効利用)	空調設備の設定温度の見 直しなどを行い、電力の 効率的な利用を心がける。	エネルギー原単位を前年 度比 1% 減を目指す。 ※本社・支社のエネルギー 原単位は、エネルギー使 用量÷従業員数にて算出	照明設備の LED 化、空調設備の温度設定の見 直し、各フロアでの室温管理、休憩時間の消灯 など基本的な取り組みを行いました。また、社 用車のエコドライブ推進を行いました。	前年度比 8% 減少しました。夏場の外気温が低かったこと、ま た残業が減ったことにより、照明・空調の電力使用量の減少が 寄与しました。また、ハイブリッド車の導入によりガソリン消 費量の削減に寄与しました。	☆☆	<b>[目標]</b> エネルギー原単位を前年度比1%減を目指す。 照明設備の LED 化や空調設備の効率的な運用管理に努めます。 社用車のエコドライブを推奨していきます。
2	グリーン購入	コピー用紙などの事務用品 に関し、可能な限り環境負 荷の低いものを購入する。	事務用品購入段階でのエ コ商品を選択し、その比 率の向上を目指す。	積極的にエコ商品を選択するように社内に周知 しました。	エコ商品購入比率 51.4% となり、前年度比 4.4 ポイント悪化し ました。	☆☆	<b>[目標]</b> 事務用品の購入の際に、積極的にエコ商品を選択してい く。